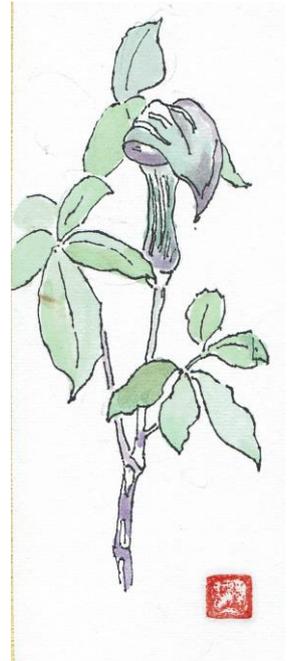


道

2016・8・3

通信 No 1400



さあ～！ 本日より 48 周年に向けスタートです！

本日の練習予定（中山先生・小坂先生）

母なるヴォルガを下りて（日本語）	1集	P 6 0
小川にそって	4集	P 2 2
ヴォルガからドンへ	プリント	
ざわめけアムール	4集	P 3 5

総会の時、団員の皆さんに意見交換をしていただきました。

このたび岡田さんからご意見を投稿していただきましたのでご紹介いたします。

《「ロシア民謡を歌う合唱団」なのか「中心に歌う合唱団」なのか？》

物議が醸されているので、団創立当時のプログラムやチラシを調べてみました。プログラムに初めて出てきたのは 1976 年の「ロシア民謡とソビエト名画の夕」で挨拶文に「ロシア民謡 ソビエト歌曲を中心に歌っている」とあります。その後の 1984 年の挨拶文にも同様の記載がありました。

～チラシに初めて登場したのは～

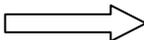
1985 年で「横浜の地でロシア民謡を中心に歌いつづける合唱団です」とのキャッチコピーがあり、その後「ロシア民謡・歌曲を歌いつづけて 21 年」等変化したり、無記載の年も 5 回ありました。ここ 10 年間は「横浜でロシア民謡を歌う（歌いつづける）」の標記が定着していました。

しかしここ 10 年程前より幾度となく「ロシア民謡を歌う」との標記に対する疑義が出ていることは団員周知の事でしょう。ロシア音楽研究家から問題提起や抗議がここ数年毎年団に寄せられているようです。

～北川先生の時代は～

団創立時の指揮者が北川剛先生でしたので「ロシア民謡」を歌うのは当然のことで、当時の若者達はこぞってロシアびいきでした。ですから「ロシアの歌」なら「ソビエト連邦諸国の歌」でも歌曲でも一緒くたにしていたようです。

うたごえ喫茶でもそうだったと思います。「ロシア民謡を歌いつづける」と標榜しながら「道」のプログラムは、世界の歌（ロシア以外の）日本の歌と共存し現在に至っています。去年は一部に「マロースカ」の創作曲が入りましたね。

裏面へ続く 

～ソビエト体制が崩壊した後～

一部で「ソビエト讃歌的な歌は歌いたくない」との声が上がり退団していった団員もいました。2003年の定演で共和国の歌の中で「わが祖国わが愛」などを歌ったときエストニア大使館からお手紙を頂きました。

その手紙には、「エストニアはロシアの一部ではありません。自国語を話すことを許されなかったソビエト占領下、エストニア国民がどんな思いでこの歌を歌っていたのか。

1991年に独立を回復した時、私達には想像もできないような歓喜とともにこの歌を歌ったであろうこと……」とあり大変ショックを受けたことを今も鮮明に覚えています。私たちは「ロシア民謡を歌いつづける」という標記を考え直さなければならぬと思った瞬間でした。

～プログラムの標記では～

40周年のプログラムには、「ロシア民謡の標記について」という団の考え方が記載されましたが、一般社会がロシア民謡もソビエト歌曲も連邦諸国の歌も混同しているという事実は否めないことでしょう。我々でさえわからないのですから。ただ言えることは「ロシア民謡」と一緒くたにされることへの抵抗と悲しさがあるのではないのでしょうか。私たちは「ロシア民謡を歌いつづける合唱団」ではないことはこれまでの演奏曲一覧で一目瞭然です。

来年の選曲でもその通りです。

岡田紀久生 (16, 8/3)

《新入団員紹介》

丸○秀○さん

誕生日 4月6日

〒241-0011

○区○島町

☎ 045-○○○-7241

Fax 045-○○○-6299

本日の片づけは

アルトとテノール

次回8月10日(水) 予定曲

小坂先生・二宮先生

花(プリント)

モルダウ(プリント)